

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 中部大学春日丘高等学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒487 - 8501
 愛知県春日井市松本町1105番地

E-mail hoshino@haruhigaoka.ed.jp

Website http://www.haruhigaoka.ed.jp/senior/

児童生徒数 男子 907名 女子 627名 合計 1534名
 児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

平成28年度のESD学習活動は、昨年度と同様に主に以下の三つの柱で成り立っています。

一つ目は「修学旅行を通じたESD学習」です。ユネスコスクールへの加盟申請を機に、修学旅行の学習を、学校全体で取り組む「ESD学習」と位置付けました。そして平成26年度より、全校的なESD学習活動として、第2学年500人を対象とした「課題探求型学習」をスタートしました。教育課程の異なる4つのコースの修学地（沖縄、シンガポール、オーストラリア）に対して「持続可能な社会の発展に向けての街づくり、国づくり」を共通のテーマに定め、1班4～5人に分かれて、5つの研究領域（①少子高齢化 ②経済 ③環境 ④平和 ⑤異文化理解）から一つを選択し、事前学習 → 文化祭での中間発表 → 現地学習 → まとめ学習（研修記） → 全体発表（プレゼンテーション）の流れでESD学習を実践しています。今年度は、国際コースにおいて、インドネシアの交通渋滞の問題に注目し、問題点とその対策について英語でプレゼンテーションを行いました。最後に、中部大学の中島泉先生から総評をいただき、このESD学習が今後どうあるべきかをご助言していただきました。

修学旅行を活用した「課題探求型学習」は、現地学習（フィールドワーク）を含むため、生徒が事前学習で得た知識を、現地での体感とともに確認でき、学びに対する充実感や達成感が得られることが期待できます。今後は、問題基盤型学習（Problem Based Learning）の手法を取り入れ、評価方法とともに「ESD課題探究型学習」をさらに発展させていければと考えています。

二つ目は、本校国際コースの「異文化学習」です。これまで10年以上にわたり、JICAの研修員や中部大学の教授を招き、「総合的な学習の時間」や学校設定科目である「異文化理解」の時間に、「異文化理解、並びに発展途上国に対する望ましい国際協力の形」を学習してきました。現在カナダとオーストラリアに交流校がありますが、今後はさらに海外の交流校を増やし、異文化理解の「生」の学習機会を増やしていく計画です。

三つ目は、本校インターアクトクラブ（ボランティア活動クラブ）の「地域貢献活動」です。これまで10年以上に渡り、週末に地元地域の高齢者施設、障害者施設、学童保育施設を訪れ、施設のお手伝いや、施設の人々を元気づける娯楽等の企画を立案・運営してきました。現在は約80人まで部員数が増え、年間を通じて40か所近い施設で、多彩な地域貢献活動を行っています。今後は、その活動領域を外国に広げ、国際化を目指していきます。

本校は、これまでの教育活動を「ESD」の概念に照らして見つめ直し、その教育内容の充実へと動き始めたばかりです。ESD学習を通じて、生徒が実社会に目を向け、自分の未来像を描くきっかけとなるように、これからのESD学習を発展させていきたいと考えています。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

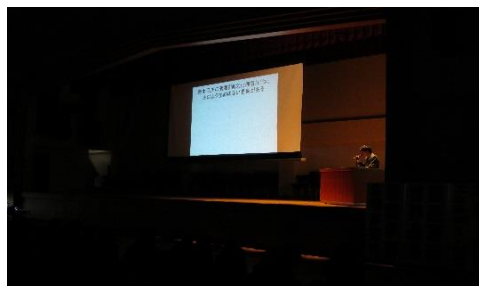
）

第3回ESDプレゼン学習会報告

2016年11月14日、本校体育館にて全コース1・2年生対象にESDプレゼン学習会を行いました。各コース第2学年の代表班がそれぞれのテーマに沿って行った修学旅行の事前学習および、現地での調査・体験で得た問題点や改善点を、パワーポイントを用いて発表しました。最後に学習会の総評として、学校法人中部大学常勤理事である中島泉先生からご助言を頂きました。

①進学コース

「本当の沖縄を知る」というテーマで、私たちが考える沖縄に対するイメージや基本的な知識が現実のそれといかにかギャップがあるかを様々な視点から捉えました。沖縄の基地問題に反対するほとんどの人たちは、本土からの活動家であるなどの興味深い事実を発表しました。



②特進コース

沖縄戦後に多くの日本兵が心的ストレス障害（PTSD）で苦しみ、未だにそのような患者が存在することに焦点を当てました。外的障害とは違い、目に見えない障害であるために、あまり理解されず、ストレスが積み重なり、自殺する人もいるという悲痛な現状を報告しました。



③啓明コース

シンガポールの経済発展にはどのような要因があったのかを船舶による貿易とシンガポールの天候から考察しました。シンガポール港は多くの国々が立ち寄る中継地でもあることから世界で最も重要な港の1つとして考えられています。また、台風や地震の心配も無い、安定した港が今のシンガポール経済を支えていると結論付けました。



④国際コース

インドネシアの交通渋滞をテーマに発表しました。近年、インドネシアは経済的な急成長を見せており、その結果、多くの人々が車を所有するようになり、都市部では交通渋滞が大きな問題となっています。そこで、公共交通機関の発展が問題を解決するだけでなく、環境にも配慮した対策だとして結論付けました。



総評

中島泉先生からは、「国内だけでなく、国外に目を向けることがこれからの時代には必要であり、世界で起こっている様々な問題に若いころから考え、積極的に取り組むことで社会で必要とされる人材になることができる」というご助言を頂きました。

